

EIM Japan ニュースレター

EIMJ TOPICS



04

Inside This Issue

- EIM Asia 報告
- 新パートナー紹介
- パートナーシップ制度紹介
- コラム | EIMをめぐるまなざし



国際連携最前線 | EIM Asia会議の報告

本会議はEIM Asia Regional Centerの枠組みのもと、アジア各国のナショナルセンター代表が一堂に会し、EIMの推進状況や課題、今後の方向性について議論を深める重要な機会です。EIM Asia Regional Centerは、アジア地域におけるEIM活動の連携と支援を担う組織であり、リーダーはシンガポールのDr. Benedict Tanが務めています。この会議は2年に1度開催され、今回はマレーシアがホスト国として開催運営を担当しました。



2024年9月20日、マレーシアで開催された「EIM Asia Regional Meeting」に、EIM Japanを代表して参加してきました。当日はアジア各国の代表者が集い、15以上の国際セッションおよびグループワークが行われ、EIMの現状や今後の戦略について活発な議論が交わされました。

本会議において、私自身は日本を代表して“National Centers Presentations on Current Initiatives” および “Capacity Building Topic”



EIM Japan 理事

佐藤 真治

帝京大学 医療技術学部
教授

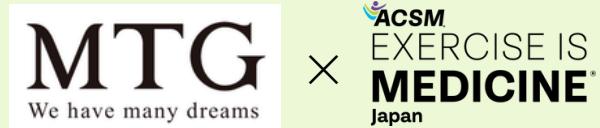
の2セッションに登壇し、日本国内におけるEIMの現状について報告いたしました。成果としましては、一つ一つのセッションも勉強になりましたが、各国の代表とより懇意になれたことです。その中の一人、台湾代表のDr. Liuとは後日彼の仕事先を訪問する約束をしました。

なお、2025年3月に実施された台湾訪問の詳細については、本号掲載の別記事（3頁目）をご参照ください。

“ EIM Japan公式パートナーに 株式会社MTGのSIXPAD本部が 参画されました

2025年8月、株式会社MTGのSIXPAD本部がEIM Japanの公式パートナーとして参画されました。SIXPADはEMS（Electro Muscle Stimulation：筋電気刺激）技術を活用したトレーニング機器を開発・提供しています。

「フィットネスからリハビリまで、筋肉を鍛えることで世界中の人々の生き生きとした人生を実現します」をミッションに予防医療領域での活動を展開しています。近年では透析患者やがん患者のサルコペニア対策として医療・介護現場での活用も進んでいます。さらに、筋肉と脳との関連性や神経栄養因子への着目など、最新の研究知見を活かした先進的な運動支援の可能性を追求しており、「運動はお薬です」というEIM Japanの理念とも高い親和性を有しています。



今後は、SIXPADの全国的な展開や情報発信を通じて、EIMの理念や運動の重要性をより多くの人々に届けられることが期待されます。

今回のパートナーシップを通じてEIM JapanとSIXPADは、医療・介護・地域コミュニティにおける運動の啓発・実践の普及をさらに推進してまいります。



FEATURE



“ EIM Japanパートナーシップ募集

EIM Japanでは「運動はお薬です（Exercise Is Medicine）」という理念のもと、医療・運動・地域をつなぐ社会実装をともに推進するパートナー企業を募集しています。ご参画いただくことで、全国の医療・運動専門職ネットワークとの連携や、社会課題解決に向けた共同啓発活動への参加等が可能になります。理念に賛同いただける法人の皆様のご参加をお待ちしております。



参画メリット



これまでの実績



今後の展望

- ✓ 医療×運動による社会貢献を通じた企業価値の向上
- ✓ 全国の医療・運動指導者ネットワークとの連携と学術啓発への協働

- ✓ 医療機関との共同セミナー
- ✓ 学会・シンポジウムへの登壇

- ✓ 運動処方システムの構築
- ✓ 後援制度の更なる普及
- ✓ 企業・地域協働プロジェクト推進

ご関心のある法人様は、右記QRコードまたはEIM Japan公式HPよりお問い合わせ・申請書提出をお願いいたします。

EIM Japan公式HP
パートナーシップ
について



本記事は、2025年3月に行われたEIM Asia関連の台湾視察に、佐藤真治理事とともに同行された元地域創生担当大臣・山本幸三氏が、同年3月10日にご自身のFacebookに投稿された内容を、本人の承諾のもと転載したものです。※あくまで執筆者個人の視点に基づく紀行文でありEIM Japanの公式見解や立場を示すものではありません。

「台湾紀行その1(レポートNo.39/2025年3月10日)
(元地方創生担当大臣 山本幸三)

1.3月2日から6日にかけて台湾に出かけた。主目的は、私が議連を作ったりして協力している「メディカルフィットネス」運動の視察だが、台湾は中国との関係で今非常に微妙な状況にあり、その現状を知りたいということもあって、積極的に参加した次第である。中略

2.今回の視察は、公益財団法人日本健康スポーツ連盟の水嶋章陽理事長を団長に帝京大学の佐藤真治教授を初め医師、看護師、理学療法士、フィットネスクラブ経営者など多士済済の計12名のメンバー構成だった。台湾には、佐藤先生がマレーシアでの学会(EIM Asia)で知り合った新北市萬里区衛生所の医師兼主任の劉尚霖氏の強い要請があって来ることになったとのこと。当衛生所の歓迎ぶりは、ものすごいものであった。セミナーには、新北市の市長代理の他、衛生所所属の医師、看護師、他のスタッフが総出で出席、地元の町内会長や漁業組合長まで参加して頂いた。セミナー以外でも、有名なジオパークやケーキ屋さん、海鮮料理屋など最大限の歓待を受けた。これを台湾流おもてなしというのだろうか。特に印象的だったのは、最後の交流会で主催責任者の劉先生がセミナーが大成功だったのを喜んで号泣した場面だった。



3.セミナーでは、台湾側から劉先生が、EIM(Exercise Is Medicine)の新北市萬里区での実践について説明。次いで日本側から3名の報告があった。要するに、病気になる前に運動することによって予防しようということだ。ただ、日本側の報告では、日本ではまだ医師がこの動きに対応できていない。なぜなら、病気にならないと医師の稼ぎにならないからだそうだ。従って今あるのは、病気になった人が病院内のトレーニングジムで運動するというのがせいぜいだとのこと。これに対して台湾では、役所が積極的に住民に運動させるプログラムを進めているとのこと。のために、町内会長や漁業組合長らの協力を得て住民参加を増やしているとのこと。

4.日本側から「台湾では、医師の抵抗はないのか?」との質問があり、これに対して「台湾では救急医療分野に医師が集中しており、ここで患者が増えるととても対応できないということで、予防健康に理解がある。」とのこと。私から「そのコストは萬里区でどれ位かかっているのか?また、誰が負担しているのか?」と尋ねたところ、年間日本円で約2千万円位、市と国で大体折半しているとのことだった。台湾の方が日本よりこの面では進んでいるようだが、日本でやる場合コスト負担は、大きな課題となるだろう。中略 (以上)

